

図書館ボランティア草加 25 周年記念講演会を行いました



木下 通子氏

- <日時> 2025 年 4 月 19 日(土曜) 14:40~16:10
<場所> 草加市立中央図書館 多目的ホール
<講師> 木下 通子氏
<テーマ> 市民の読みを支えるボランティア活動
○ 「読む」ことってなんだろう？
～ 子ども読書推進計画
○ 学校図書館の現状と課題
○ 埼玉県子ども読書推進計画
○ 読書バリアフリー法
～ ボランティアのみなさまに支えてほしいこと

講師をお願いする先生を選ぶ際に、中央図書館の鈴木前館長に相談したところ「L.V.S.にピッタリの方がいらっしゃいます」とご紹介いただいたのが木下通子先生でした。木下先生は学校司書で社会教育士。長く勤められていた埼玉県での高校司書を今年 3 月で退職、その後も引き続き、本と人をつなげる活動を展開すべく「オフィスみちねこ」を起業して、新たな挑戦をスタートされたところでした。

講師の依頼に快く応じていただき、事前に L.V.S.についてしっかりと理解されて、私たちの日頃の活動に即した内容でご講演をいただきました。

特に印象に残ったお話

高校司書としての経験から「子どもの読書がいかに重要か」を熱く語られました。今学校では、知識の学習だけでなく、生徒たちが自分で課題を見つけ解決策を考えるという探究学習が進められています。その学習では、図書館で本を活用して調べ事をするのが不可欠で、そのためにも、小さな頃から本に親しむことはとても大切になります。ボランティアにも読み聞かせなど、様々な機会での読書推進に尽力いただけたら非常に心強いとのことでした。

ご自身も、今後は社会教育士の立場から「子どもの居場所に本を置く」活動に力を注いでいけるそうです。

「読書バリアフリー」についてもお話がありました。様々な障がいのある方、日本語を母国語としない方なども、公平に読書による文字・活字文化の恩恵が受けられるようにすること。そのためには、そんな方々が利用しやすい形式の書籍を充実させることが急務です。大活字本・点字図書・手で触れる本・LLブック・DAISY・電子書籍など。これらの中には、ボランティアの手によるものも少なくないとのことでした。

L.V.S.の各部が取り組んでいることとも深く関係する大切なテーマだと実感しました。

聴講した会員の感想

「先生の熱く力のこもったお話に元気をいただきました」

「学校図書館の実状や法律のことなど、普段と違う観点からの話が聴けて良かったです」

「幼児への読み聞かせが、中学生・高校生への成長の糧になると信じて、ますます読み聞かせを頑張ろうと思いました」

トピックス

木下先生が立ち上げた「埼玉の高校図書館司書が選んだイチオシ本」は2024年で10周年を迎えました。

高校生の頃からイチオシ本の発表が楽しみで、読書の道しるべにしているという会員は、先生の著書を持参して、しっかりとサインをいただいていた。

講演後、木下先生に話をお聞きしました。

「起業してから初めての講演だったので少し戸惑いもありましたが、会場の雰囲気の後押しされました。L.V.S.のような大きな規模で幅広い活動をしている図書館ボランティアはあまり例がありません。ぜひ市内の学校図書館ともつながって活動を広げていくことを期待しています」

しっかりと励ましのエールをいただきました。今後ともよろしくお願いします。

木下 通子氏（オフィスみちねこ代表／社会教育士、学校司書、書評家）

- <略歴>・1985年に埼玉県の高司書となり、2025年3月県立浦和第一女子高校を最後に退職
・高司書として働きながら「みちねこ」として、本と人をつなぐ活動を展開した実績を元に、2025年4月に「オフィスみちねこ」を立上げ
・学校、社会教育施設、書店などでビブリオバトルや読書に関するワークショップを開催する他、YouTubeチャンネル「みちねこラジオ」で本の話について配信するなど、本と図書館の世界を広げる活動を展開中
・子どもの居場所に本を置く活動や、子どもや若者の読書推進に取り組む

<著書>『読みたい心に火をつけろ！』

『知りたい気持ちに火をつけろ！』（いずれも岩波ジュニア新書）など多数

オフィスみちねこの詳細はこちらから⇒ <https://www.michineko.com/>

